

プレゼンテーションスキルを高めよう

東京都立晴海総合高等学校 キャリアカウンセラー

千葉吉裕

2020年、東京でオリンピックが開催されることが決定しました。「雇用の創出」「海外から来日される方々とコミュニケーションするための能力の育成」「世界に映像を配信する新たな技術の開発」「パラリンピック成功に向けての、福祉への意識向上」など、さまざまな効果が期待されます。もちろん、良いことばかりではないでしょうが、次世代を担う若者にとっては、チャンス到来だとワクワクしてきます。

さて、2020年夏季五輪招致は、上手なプレゼンテーションを見る機会になりました。5月、ロシア・サンクトペテルブルクで開かれた「スポーツアコード会議」、9月、アルゼンチン・ブエノスアイレスで開かれた「国際オリンピック委員会総会」でのプレゼンテーションは、繰り返しテレビで放映されました。気持ちを前面に出す身振り手振りを交えながら、英語、仏語で訴える姿は、これからの時代を象徴するものでした。笑顔で熱い思いを込めたスピーチは多くの人々に強い印象を与えました。自信のこもった強いメッセージは、不安を払拭し、大きく期待を高めました。

かつては、プレゼンテーションスキルは、活動家や政治家、宗教家、経営者など一部の人たちに求められる能力でした。しかし、今日、プレゼンテーションスキルは、すべての社会人に求められる能力になってしまったので

す。就職活動では、どのようなスキルを培い、そのスキルをどのように実践し、どれだけ企業に貢献できる人物なのかを訴えます。

また、日々の生活で、物事を頼んだり、気持ちを伝えたりするのも、プレゼンテーションです。「愛の告白」だって、プレゼンテーションの一つです。相手に自分の思いが伝えられなければ、プレゼンテーションの意味はありません。効果的なプレゼンテーションができるように知識を学び、実践、練習を繰り返し、成果を試す機会を増やすことが求められます。

東京都では、平成25年度都立高校入学者選抜から、推薦入試を実施するすべての都立高校で集団討論を課すことになりました。自分の考えを相手に的確に伝えるとともに、相手の考えを的確に捉え人間関係を構築することは、これからの時代に欠かせない能力と考え、導入されることになったようです。今年の高校の新生徒には、中学生のとき、入学試験対策も兼ねて、授業の中で集団討論を経験した生徒もおり、プレゼンテーションで重要な「自分の考えを的確に伝える力」を育んだ生徒が入学してきています。

また、今年8月31日、各都立高校から代表1名以上が選出され、国立私立の高校の生徒も加わり、ビブリオバトル（書評合戦）首都圏大会予選が盛大に行われました。ビブリオバトルとは、立命館大学情報理工学部准教授 谷口

忠大氏によって考案された本の書評を述べ合うゲームです。発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まり、順番に一人5分間で本を紹介し、それぞれの発表後に参加者全員で、その発表に関する質問を3分行います。

すべての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」として決定します。プレゼンテーションの出来が勝敗を決める力ギになるわけです。集まった参加者は各学校の代表者だけあって、プレゼンテーション巧者でした。大会を参観し、高校生のプレゼンテーションスキルが向上したことを痛感させられました。このイベントをきっかけに、効果的なプレゼンの仕方を学ぶ生徒も増えるのではないかと期待されます。

グローバル化が進んだ社会で活躍するためには、プレゼンテーションスキルを磨く必要があります。プレゼンテーションについて学ぶ機会を一層増やすことが求められています。幼い頃からプレゼンテーションを実践する機会が少ないために、プレゼンテーション下手と揶揄される日本人。次世代を担う若者たちは、そのようなことを言われることはないでしょう。全国各地で、プレゼンテーションスキルを身につけられる学習の場が増えることを期待したいと思います。